



林田 空
(加津佐中学校 3年)

僕がこの旅で学びたかったこと、知りたかった事は「4少年の気持ち」です。40年以上前の日本に住んでいた自分と同じくらいの年の4人の少年たちが、果たしてどんな思いでヨーロッパに渡り、何をどう感じたのかとても興味がありました。

ヨーロッパ派遣は、8日間の日程でしたが一日一日がとても充実していて、新しい発見の連続でした。その中でも特に印象に残っているのが「ジェズ教会」です。この教会は天正遣欧少年使節の4人も実際に訪れた場所です。天井は、立体的で鮮やかな絵が描かれていて、周りにはたくさん彫刻が並んでいます。400年以上前のローマの技術はこんなにも進んでいたのかと、とても驚きました。きっと4少年も僕と同じように「驚き」を隠せなかったのではないかと思います。また、僕



酒井 麻帆
(深江中学校 2年)

私は、日本とイタリアでは全然文化が違うなと感じました。まず、そう感じたのは「建造物」です。統一感のある色、玄関には彫刻などが置いてありました。その中でも、一番印象に残ったのは、2つの教会です。

1つ目はラテラノ教会です。ラテラノ教会は、天井の彫刻が印象的でした。金色でとてもきれいで、今にも落ちてきそうでした。4人の少年たちが訪れたときのままでそう、私たちが今見てすごいと思うのに当時の4人の少年らは、声も出ないくらい驚いたと思います。

2つ目は、ジェズ教会です。ジェズ教会には4人の少年らが宿泊していたそうですが、同時に見張られてもいたそうです。私は、見張られるなんて経験はないですが、相当窮屈だったんじゃないかなと思います。

印象に残った2つの教会

ました。そして、こちらの教会でも天井が金色で絵や彫刻などがありました。これほどの高い技術を430年以上前にしてすごいと思いました。430年前に私がそれを見ていると考えるとあまりにも衝撃的だろうと思います。皆さんの建造物を見ることで、皆さんの建造物を見ることで、できてよかったです。

そして、クリスマスだったので、ホームステイ先では、クリスマスツリーが飾ってあったり、ボードゲームをしたり、クリスマス料理が出たり、コンサートがあったりしました。とても楽しかったです。

ホームステイ先のお母さんにイタリアについて教えていただきました。写真や本を見せていただき説明していただきました。きれいな海やガラス細工、色々なものを見せてもらいましたが、英語があまり話せず困りました。もっと勉強していけばよかったと思います。

今回の事業で、サン・ピエトロ大聖堂などたくさんさんののを見て、聞き、学びました。南島原市も世界遺産の登録を目指して頑張っていると思います。

すべては4少年から

私たちは天正遣欧少年使節と、とても関係の深いバリエーノ神父の故郷であるキエーティという町を訪れ、26日と27日の2日間ホームステイを行いました。初めての海外で初めてのホームステイ。こうして、日本から遠く離れた国に来て、初めて外から日本を見つめたとき、日本にいたころは当たり前だと思っていた事が、本当はとても素晴らしい事だったと感じる事ができました。

4少年が帰国した後の日本ではキリスト教の弾圧が厳しさを増してきます。4少年のヨーロッパ派遣は無駄な事だったのでしょうか?僕は、そうは思いません。実際にヨーロッパへ行き4少年と同じものを見て、同じ感動を味わって確信しました。今の日本があるのも、僕がヨーロッパへ行ったのも、Kuchinotsuという文字が遠く離れたヨーロッパの町の銅像に彫られたのも、全ては天正遣欧少年使節があったからです。これからの日本は彼らの努力を決して無駄にしてはいけません。4少年が残っていた、ヨーロッパとのつながりを、これからも大事にしていくべきだと僕は思いました。

4少年の感動を実感



福田 晃大
(口之津中学校 2年)

僕は、8日間のイタリア派遣を終えて、印象に残っていることが2つあります。

1つ目は、ローマのサン・ピエトロ大聖堂や、4少年が立ち寄ったジェズ教会、ラテラノ教会やバチカン美術館を訪れたことです。僕は初めてこれらの教会を見て、建物の荘厳さや迫力、そして400年以上も前に建立されたその技術の素晴らしさにすごく圧倒されました。特にジェズ教会やラテラノ教会は、天井が金で覆われ、美しい彫刻や壁画、建ち並ぶ4〜5メートルの聖人の像が僕の目に飛び込んできました。現在の僕たちが見ても圧倒される光景:天正の4少年は、「素晴らしー!」という言葉では表現しきれない感動を受けたはずだと思います。

2つ目は、キエーティ市でのホームステイです。初めはとも緊張して積極的に話せなかったり、言葉が通じなくて戸惑ったりしました。けれどもホストファミリーが温かく受け入れて下さったので、言葉は通じなくても積極的に挑戦しようと思ひ、自分の知っている限りのイタリア語や英語を使って話しかけました。

自分の目で見て感じたこと

私は、平成遣欧少年使節として南島原市からイタリアに派遣していただきました。400年前から続くイタリアと南島原市とのつながりをさらに深め、南島原市についてイタリアのかたがたにもっと伝えたいという気持ちでこの派遣に臨みました。この派遣を終え、私が考えたことがあります。

1つ目は、サンピエトロ大聖堂やコロッセオ、トレヴィの泉、バチカン美術館などを見学し、とても感動しました。その中でも特にバチカン美術館で見た芸術品の数々はとても心に残り、イエスキリストを描いた絵からは、人々のキリスト教を信仰する熱い思いが伝わってきました。きっと400年前、ヨーロッパにやってきた天正遣欧少年使節の4人も、自分の目で初めて見るものに驚き感動したと思います。これからは自分が興味を持ったものは自分の目で見て、そこから何かを感じ取ることができるようになりたいです。

2つ目は、イタリアと日本、お互いの良さを知ることがで



高見 詩織
(有家中学校 3年)

きたことです。イタリアの良さは、おおらかで社交性にあふれているところです。例えば、ホームステイ先で初対面の私たちにも笑顔で優しく接してくださいました。また、日本に興味を示してくださり、事前に日本について本を買い調べてくださり、たくさん質問してくださりました。日本人の私からすると、とても嬉しくイタリアをさらに好きになりました。

最後に、今回の派遣でお世話になった南島原市役所のかたがた、ローマのかたがた、ホストファミリーを始めとするキエーティのかたがた、そして両親に対する感謝の気持ちを忘れずに、この経験を南島原市や自分の将来に役立てていきたいです。本当にありがとうございました。



ホストファミリーの少年と



キエーティ市長(右から2人目)と団長の高田副市長



クリスマスを迎えたサン・ピエトロ大聖堂で



キエーティのホストファミリーと対面



4少年が訪れたラテラノ大聖堂で



団員はセミナーヨ再現授業を受講しました